

岩手県被災自治体視察

＜大槌町・釜石市コース＞

平成30年8月30日（木）～31日（金）

＜内容＞

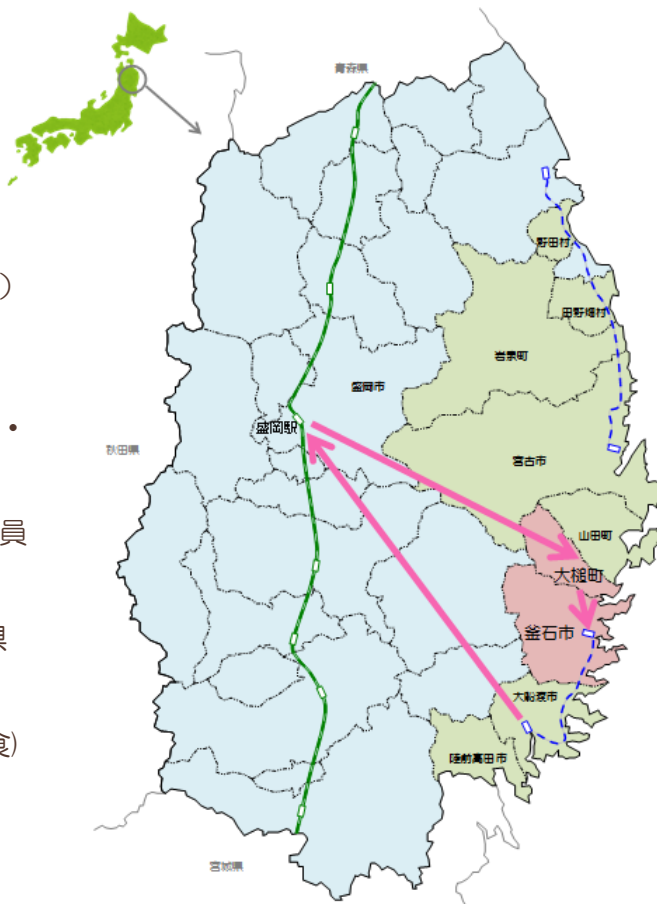
- ◇被災地現地視察
- ◇派遣職員との面談
- ◇被災地自治体職員との交流会

＜参加対象＞

- ◇各都道府県
（市区町村行政担当及び人事担当等）
- ◇各政令指定都市（人事担当等）
- ◇全国の市区町村等（人事担当等）
- ◇全国知事会、全国市長会、
全国町村会、各都道府県の市長会・
町村会及び特別区長会
- ◇過去に岩手県の被災市町村で
派遣職員として勤務経験のある職員

＜参加者の費用負担＞

- ◇岩手県までの移動交通費
※ 岩手県内の移動交通費は岩手県
で負担
- ◇交流会の飲料費
※ 食費（1日目夕食、2日目朝食）
は岩手県で負担
- ◇前泊、後泊する場合の宿泊費



	時間	所要	内容
8月30日 (木)	～12:30	-	集合・受付(盛岡駅西口バスターミナル)
	12:30～15:30	180分	バス移動(盛岡駅→大槌町)
	15:30～16:30	60分	大槌町内視察①
	16:30～17:30	60分	大槌町内視察② 又は 派遣職員との面談(大槌町役場内)
	17:30～18:00	30分	バス移動(大槌町→釜石ベイシティホテル)
	18:30～	-	交流会(釜石ベイシティホテル)
8月31日 (金)	～8:20	-	集合
	08:20～09:20	60分	釜石市内視察①
	09:20～10:00	40分	釜石市内視察② 又は 派遣職員との面談(釜石市役所内)
	10:00～10:20	20分	バス移動(釜石市役所→釜石駅)
	10:20～11:20	60分	三陸鉄道貸切列車(釜石駅→盛岡駅)
	11:20～11:40	20分	移動(盛岡→まるしちザ・プレイス)
	11:40～12:40	60分	昼食(大船渡市内:まるしちザ・プレイス)
	12:40～15:10	150分	バス移動(まるしちザ・プレイス→盛岡駅)
	15:10	-	盛岡駅解散

<大槌町・釜石市コース> 実施内容



1. 盛岡駅

盛岡駅に集合し、バスにて大槌町へ出発しました。

<1日目>

～参加者の声～

(全体を通して・・・)

今回初めて東日本大震災被災地に入った。復興は進んでいると感じた。時間はかかると思うが今後もこのような視察事業を継続してほしい。



2. 大槌町内

(中央公民館・3.11希望の灯・大槌学園・復興事業ほか)

大槌町役場職員から震災概要と面整備事業概要の説明がありました。

<1日目>

～参加者の声～

(被災自治体へメッセージ)

被災の事実、復興への道など風化させないでほしい。この災害から得た課題や反省などをまとめて発表して頂くとありがたいです。



～参加者の声～

報道等で見ることはあったが、現地を自分の目で見て被災地の現状をあらためて知る機会となった。自身の目で見ることによって、現地の厳しい現状が伝わってきた。そして、今もまだ終わっていないことを再認識することができた。

<大槌町・釜石市コース> 実施内容



3. 大槌町内

(大槌町旧役場庁舎・赤浜地区・ひょうたん島・おしゃっち)
現地ガイドによる説明がありました。

※視察中、希望者は大槌町役場にて派遣している職員と面談実施。

<1日目>

～参加者の声～

(面談を行って・・・)
現在の職場の雰囲気や周りの職員も含めて現状が把握できた。派遣職員も公私ともに充実しているようで良かった。



～参加者の声～

ボランティアガイドさんの説明は大変よかった。大槌町の復興状況を確認できた。区画整理事業の進捗率が高いのはよかった。



4. 釜石市内

宿泊先ホテルにて、参加者、釜石市、大槌町の関係者との交流会を行いました。

<1日目>

～参加者の声～

(元派遣職員から)
同じ気持ちを持った人達と話をする機会が持てた事はとても有意義だった。

～参加者の声～

釜石市長や大槌町長と直接話をする事ができ、非常に有意義だった。

<大槌町・釜石市コース> 実施内容



5. 釜石市内
(鵜住居スタジアム・根浜海岸・唐丹町本郷) 現地ガイドによる説明がありました。
※視察中、希望者は釜石市役所にて派遣している職員と面談実施。

<2日目>



6. 三陸鉄道
三陸鉄道釜石駅→盛駅
(大船渡市) 間の貸切
震災学習列車に乗車しました。

<2日目>

～参加者の声～

(全体を通して・・・)
被災後7年半経った今の復旧状況を見て、早期復旧のための課題、今後すべきことが少し見えてきた。現地において市町村などの管理者、第一線の行政担当者、市民の目線などの意見が聞けて、実体験からの意見は今後の災害復旧行政の参考になった。他市町からの派遣者が使命感と充実感の下、生き生き生活しているところもあり、日本「一家」を感じることができた。また広域化の必要性を感じた。

